

「映画っていいものですね」は不滅

2022年4月24日

太田隆次

映画人口は増えています

1) かつて映画は映画館で見るもので、映画人口は少なかった

若かりし頃、映画評論家の水野晴郎さんの「いやあ、映画って本当にいいもんです」や淀川長治さんの「さいならさいなら」の名セリフが流行りましたが、こちらはサラリーマンの身で、おいそれと簡単に映画館に足を運ぶ時間もお金の余裕はありませんでした。

映画館の中に遅れて入る時には外の光が漏れないように扉の仕切りの分厚いカーテンを恐る恐るそっと開けて中にサッと入り、坐ってからは匂い、ざわめき、景色や俳優が飛び出て来そうなシネマスコープの横に長い大画面と大音響などに圧倒されたものでした。

2) 所が今は家庭でもテレビやDVDなどで映画人口は増えている

さる4月15日(金)のNHKの「チョコちゃん」の番組に「映画特集」があり、それによると現代は

- ・映画上映は配達人によるフィルム配達ではなく、全国ネットで瞬時に届ける「シネマ方式」になっている
- ・テレビの画質、送信、受信技術の向上とサイズや音量が大きくなり、映画館に出かけて鑑賞する映画との差が小さくなっている。

例えば、黒色は 薄ネズミ色→漆黑まで数段階がありますが。テレビでも映画並みに段階別に見られるようになっている。

私がこれまでに見た映画の振り返り：各分野で一つずつ選ぶとしたら(順不同)

1) 欧米映画

西部劇

「黄色いリボン」

音楽が軽快でよかった

南北戦争

「風と共に去りぬ」

主人公の最後の言葉「明日はまた違う明日がある」

環境保護

「仔鹿物語」

	動物を自然に返すことの辛さを子供に知らせる
人種問題	「アラバマ物語」
	奮闘する白人弁護士の正義感
ミュージカル	サウンド・オブ・ミュージック
	人種を超えた音楽の力を知らされる
戦記物	「史上最大の作戦」
	ナチスを打倒するまでの国家を超えた協力
コメディ	「モダンタイムス」
	人間性を無視した利益至上主義企業のあさはかさ
スリラー	「鳥」
	平常あり得ない野生動物の人への攻撃を描く
地球外生物	「未知との遭遇」
	「山上の垂訓」にヒントを得たという地球外生物との遭遇
労使紛争	「我が谷は緑なりき」
	私企業の労働者解雇と戦う地元住民の団結と戦い
スト破り	「鉄道員」
	「スト破り」で労組幹部との軋轢に苦しむ高齢労働者が、娘や子供たちとの葛藤とも苦しむ姿を描いたイタリア映画

2) 邦画

青春	「青い山脈」
	若い先生や男女高校生をめぐる青春モノ
小津監督作品	「彼岸花」などの一連の小津監督の作品
黒澤明監督作品	「羅生門」などの一連の黒澤明監督の作品

以上